

兵庫県のクビナガハムシ

(兵庫県甲虫相資料・94)

高橋 寿郎

ハムシ科 (Chrysomelidae) のクビナガハムシ亜科 (Criocerinae) に属するハムシ類は非常にきれいな種が多く、その県下における分布も長い間調査して、或る程度わかってきたように思われるので此処に現時点での県下の分布をまとめておくことにする。

Subfamily Criocerinae クビナガハムシ亜科

日本産は4属30種が知られていて兵庫県下には4属19種を産する。

1. *Crioceris quatuordecimpunctata* (Scopoli, 1763)

ジュウシホシクビナガハムシ

体背面は赤褐色で黒紋を有した種で(通常前胸背に5個、上翅に14個の黒色斑紋を有する)、大変顕著なものであるから同定の間違はないと考えられる。この黒紋には変化があると(湯浅、昆虫、Ⅻ, 2: 37—42, 1938)。

生態に就いては福田 彰氏の報告(日本の甲虫, Ⅱ, 2: 91, 1938)があり同氏により幼虫の図説もある(日本幼虫図鑑, p. 493, f. 926, 1959)。食草としては栽培アスパラガス(オランダキジカクシ)が知られている。

本種は全国的に見ても余り分布の知られていない種の1つである(長野県あたりで栽培アスパラガスの害虫として問題になったことがあると)。

県下では全く記録がなかったが美方郡浜坂で採集されている。城崎郡の神鍋山周辺ではアスパラガスの栽培が盛んとのことであるからこの付近にはいるように考えられるが今の所上記場所以外知られていない。浜坂ではアスパラガスの栽培は行われていないむね記しておられるので他の食草があるのかも知れない。大野氏はキジカクシ、タマボウキ、クサスギカズラ等々の可能性を示唆しておられる(昆虫と自然, Ⅱ, 4: 9—13, 1967)。この属のカタホシクビナガハムシ *C. orientalis* Jacobyは今の所兵庫県下の記録がないがこちらも本州の日本海沿岸から九州の西岸地帯において分布している種である様だから県の日本海沿岸の地域

に分布している可能性は充分ある。

産地：美方郡浜坂〔lex., 13—VI—1976, Isono leg., lex., 1—VI—1977, Shimoda leg., 磯野, 1979〕*

2. *Lema adamsii* Baly, 1865

キベリクビボソハムシ

本種も黄赤褐色、頭楯の2紋、前胸背の4紋、各上翅の中広い縦帯紋が黒色を呈するのが基本的な形態で光沢もあり美しい種である。

食草はヤマノイモが知られている。斑紋の変化も割合あるようでその変化については中條博士が詳しく書いておられる(新昆虫, Ⅶ, 13, pp. 4—6, 1954)。

兵庫県下では大変個体数の少ない種の1つである。全国的にもそう多くいる種ではなさそうである。生態に就いても詳しい報告はない。

産地：神崎郡大河内町川上〔木元・日浦, 1971〕。宍粟郡音水〔lex., 21—VI—1972〕。氷上郡神楽村稲土〔山本, 1953, 1958〕。出石郡出石町林木〔高橋, 1963〕。

3. *Lema cirsicola* Chûjô, 1959

アザミクビボソハムシ

かなり県下に広く分布している種であるがどちらかと言えば海岸線ぞいでは個体数はや、少いようである。

生態については高倉氏の報文があり(新昆虫, Ⅴ, 4: 40, 1952)。幼虫は林氏が図説されている(日本幼虫図鑑, p. 494, f. 928, 1959)。

食草はアザミ類といわれている。

産地：川辺郡猪名川町杉生新田〔仲田, 1979〕。神戸市六甲山〔2exs., 18—VI—1967〕。多可郡鳥羽〔lex., 29—IV—1972〕。神崎郡大河内町川上〔3exs., 14—V—1977〕。飾磨郡夢前町我孫子〔lex., 5—VII—1979〕。相生市三濃山〔lex., 7—V—1972, lex., 6—V—1973, lex., 6—VII—1973, 5exs., 28—IV—1974, lex., 3—V—1974, 2exs., 1—VI—1974, lex., 8—VI—1974〕。

*産地で〔 〕は文献からの引用。()は筆者の採集並びに恵与を受けて現在所有標本。県関係の文献は拙著文献目録、改訂版(1981)を参照下さい。

宍粟郡音水 (lex., 21—VII—1955, lex., 16—VII—1972, lex., 13—V—1973, lex., 15—VII—1973, lex., 21—V—1979)。赤西 (lex., 21—V—1979, lex., 27—V—1979, lex., 3—VI—1979), 坂ノ谷 (3exs., 9—VI—1973)。氷上郡〔山本, 1953〕。出石郡出石町荒木〔高橋, 1963〕。城崎郡竹野三原〔高橋, 1975〕。養父郡関宮町大久保, 鉢伏山〔木元, 日浦, 1971〕, 氷ノ山 (lex., 25—VII—1955, lex., 27—VII—1956)。美方郡扇ノ山〔辻, 辻・岸田, 1972, 高橋, 1975〕。

4. *Lema concinnipennis* Baly, 1865

キバラルリクビボソハムシ

余り産地の記録はなかったが神戸市内では極めて普通に産する種であり県下の分布も恐らく広いものと考える。

生態に就いては高倉氏の報文があり (新昆虫, IV, 13, pp. 14—16, 1951)。また幼虫については黒佐氏の記録がある (新昆虫, VIII, 9, p. 43, 1955)。食草としてはツユクサが知られている。

産地：津名郡岩屋 (lex., 29—IV—1961), 愛宕山〔大野, 1969〕。Hiogo〔Baly, 1873〕。神戸〔和田, 1950〕, 再度山 (lex., 20—VI—1979), 藍那 (lex., 22—V—1978), 烏原 (2exs., 16—V—1971, 2exs., 23—V—1971, 4exs., 30—V—1971, 3exs., 13—VI—1971, lex., 27—VI—1971, lex., 3—VII—1971, 5exs., 4—VII—1971, 4exs., 11—VII—1971, lex., 18—VII—1971, lex., 25—VII—1971, lex., 8—VIII—1971, lex., 3—V—1972, 19exs., 14—V—1972, 6exs., 28—V—1972, 5exs., 2—VII—1972, 3exs., 18—VII—1972, lex., 1—V—1973, 3exs., 5—V—1973, lex., 8—VII—1973, lex., 9—VI—1974, 2exs., 21—V—1978, lex., 22—VI—1980)。明石市明石公園 (lex., 15—VI—1975)。氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕。出石郡出石町暮坂〔高橋, 1963〕。養父郡氷ノ山 (lex., 27—VIII—1956)。

5. *Lema coronata* Baly, 1873

トゲアシクビボソハムシ

筆者は県下から未採集である。記録も多くない。より一層の調査が必要である。生態に就いては高倉氏の報文がある (新昆虫, VI, 7, pp. 17—19, 1953)。食草はツユクサが知られている。

産地：津名郡愛宕山〔大野, 1969〕。宝塚市内〔後藤, 1955〕。氷上郡〔山本, 1958〕。出石郡出石町水上〔高橋, 1963〕。

6. *Lema decempunctata* Gebber, 1830

クコクビボソハムシ

上翅は黄褐色で2～10の黒紋を具えるはっきりしたハムシで同定を間違えることはないと思われる。たゞ斑紋の変化はだいぶあるようで無紋型 *ab. brunneipennis* Matsumura et Kuwayama もあるとのこと。

卵から成虫までの原色図説もあり (新昆虫, II, p. 7, 1949), 生活史、斑紋変異については馬場博士の詳細なる研究がある (新潟高校“自然研究”第1, 2, 4号, 1932—1935)。またそれ以外に斑紋の変化については多くの報告がある (高倉, 新昆虫, V, 2, p. 40, 1952, 橋本, 新昆虫, V, 12, p. 45, 1952, 山本, 新昆虫, VI, 6, p. 48, 1953, 穂積, 新昆虫, VI, 10, p. 37, 1953, 盛原, 新昆虫, VII, 10, p. 41, 1954)。

食草はクコであるからクコを見つければ本種は見られると思うのだが県下の記録はそれ程多くない (川西市大和には多産の報告がある)。加古川でも本種が多いたと言う連絡を受けたが確認出来なかった。

産地：三原郡阿万西町〔久松, 1974〕。川西市大和〔仲田, 1980〕。神戸市六甲山 (3exs., 4—V—1958), 烏原 (3exs., 29—IV—1970), 高取山〔鳥居〕。高砂市〔Kuwayama, 1932〕。氷上郡〔山本, 1958〕。

7. *Lema delicatula* Baly, 1873

キオビクビボソハムシ

戦前神戸一男氏により“日本の甲虫, 第1巻, 第1号”のトップの原色図版第1図に本種が図説され (1937) その美しさに心ひかれなんとか採集したいものだと思っていたが戦前は採集が出来ずじまいであった。

戦後神戸市内の原、山の街で案外注意すれば採集出来ることがわかった。依然県下での産地は余り知られていないが市内に多いことからして分布は可成り広く産するように考えている。食草はツユクサが知られている。

生態に就いては高倉氏の報文がある (新昆虫, IV, 13, pp. 14—16, 1951, VI, 7, p. 18, 1953)。

産地：津名郡愛宕山〔大野, 1969〕。Hiogo〔Baly, 1874〕。神戸〔和田, 1950〕, 烏原 (lex., 4—VII—1971, lex., 11—VII—1971, lex., 14—V—1972, lex., 4—VI—1972, lex., 18—VII—1972, 2exs., 27—IV—1973, lex., 3—VIII—1974, 2exs., 12—VI—1976), 山の街 (3exs., 30—V—1953)。氷上郡柏原〔山本, 1953, 1958〕。

8. *Lema dilecta* Baly, 1873

マエボシクビボソハムシ

Lema 属中最小の種であり *Oulema* 属のハムシに似るとある。BalyによりHiogo産1頭の標本で命名記載

された種であるがその後兵庫県下での産は宝塚の記録があるだけで全く採集出来ない種である。食草はスゲの類が知られているが生態その他もよくわかっていない。

産地：Hiogo [Baly, 1873]。宝塚市内〔後藤, 1955〕。

9, *Lema diversa* Baly, 1873

カワリクビボソハムシ

本種の上翅は変化に富み全体赤褐色の原型(アカクビボソハムシ)の他に *f. morii* Yuasa (アトモンクビボソハムシ), *f. doii* Kuwayama (クロスジクビボソハムシ), *f. akaheri* Yuasa (ツマキクビボソハムシ), *f. lewisii* Baly (ツマキルリクビボソハムシ) の4型がある。

兵庫県下では *f. lewisii* を一番多く産し、次いで基本型で、*f. akaheri* は割合い少く、*f. morii* が一番少ない。

成虫・幼虫ともツユクサで生活する。生態に就いては湯浅(昆虫, VIII, 6, pp. 161—164, 1939), 安富(昆虫, XVIII, 6, pp. 7—8, 1950), 高倉(新昆虫, IV, 13, pp. 14—16, 1951) などの報文がある。

Typical form 産地：津名郡愛宕山〔大野, 1969〕。神戸〔黒佐, 1955〕, 御影〔後藤, 1955〕, 鳥原 (lex., 26—VII—1938, 2exs., 4—VII—1939, lex., 2—V—1943, lex., 6—IV—1952, lex., 23—I—1972, lex., 4—VI—1972, lex., 2—VII—1972, lex., 18—VII—1972, lex., 27—VI—1976, lex., 11—VII—1976)。飾磨郡家島 (lex., 26—V—1978)。水上郡〔山本, 1958〕。美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕。

f. akaheri Yuasa, 1939

産地：神戸市鳥原 (lex., 28—VIII—1971, lex., 8—VII—1973, lex., 27—VI—1976)。明石市明石公園 (lex., 26—VI—1976)。多可郡三谷 (lex., 2—VIII—1976)。

f. doii Kuwayama, 1932

産地：神戸市六甲山〔Heinze, 1943, 和田, 1950〕。鳥原 (lex., 4—VII—1939, lex., 30—V—1971, lex., 27—VI—1971, lex., 25—VII—1971, lex., 4—V—1972, lex., 29—V—1980, lex., 4—VII—1980)。

f. morii Yuasa, 1939

産地：神戸〔和田, 1950〕, 鳥原 (2exs., 27—VI—1976)。

f. lewisii Baly, 1873

産地：津名郡愛宕山〔大野, 1969〕。川辺郡猪名川町槻並 (lex., 2—VII—1978)。神戸市鳥原 (lex., 23—V—1971, lex., 13—VI—1971, 4exs., 4—VII—1971,

lex., 8—VIII—1971, 2exs., 14—V—1972, 2exs., 28—V—1972, lex., 4—VI—1972, lex., 2—VII—1972, lex., 27—VII—1972, lex., 27—IV—1973, lex., 8—VII—1973, 3exs., 27—VI—1976, lex., 11—VII—1976), 山の街 (lex., 30—V—1954), 丹生山 (4exs., 5—V—1956), 妙法寺 (lex., 26—VII—1978), 藍那 (3exs., 27—VII—1978, 2exs., 29—VII—1978, 2exs., 5—VIII—1978, 3exs., 19—VIII—1978)。加西市法華山一乗寺 (lex., 23—V—1965)。飾磨郡雪彦山 (lex., 14—VII—1957)。宍粟郡波賀町音水 (lex., 20—VII—1959, lex., 10—VIII—1975)。水上郡〔山本, 1953〕。出石郡出石町荒木〔高橋, 1963〕。豊岡市宮島, 長谷〔高橋, 1975〕。養父郡氷ノ山 (lex., 25—VII—1955, lex., 22—VII—1957)。

10, *Lema honorata* Baly, 1873

ヤマノイモクビボソハムシ

本種は兵庫県下では広く分布している。特に個体数が多いとは思われないがまんべんなく分布しているようである。

生態に就いては岩月氏の報文がある(幼虫, I, 4/5, pp. 13—17, 1952)。成虫・幼虫ともヤマノイモを食害する。

産地：三原郡論鶴羽山〔大野, 1969, 堀田, 1978〕, 洲本市先山〔堀田, 1978〕。川西市横地〔仲田, 1978〕。神戸市鳥原 (lex., 5—VI—1966, lex., 16—VIII—1967, 2exs., 27—VI—1971, lex., 11—VII—1971, lex., 4—VI—1972, lex., 8—VII—1973, 3exs., 27—VII—1974, lex., 3—VIII—1974, lex., 5—VI—1980), 藍那 (lex., 8—VI—1978, lex., 10—VI—1978, lex., 27—VI—1978, 2exs., 14—VII—1978, lex., 7—IX—1978), 押部谷木見 (lex., 16—VII—1980)。高砂市〔桑山, 1932〕。飾磨郡雪彦山 (4exs., 14—VII—1957), 夢前町我孫子 (2exs., 5—VIII—1979)。多可郡三谷 (lex., 8—VI—1975, 4exs., 13—VII—1975, 6exs., 26—VIII—1975, lex., 13—IX—1975), 鳥羽 (14exs., 5—VII—1975, 2exs., 19—VII—1975, 3exs., 2—VIII—1975)。神崎郡大河内町川上 (lex., 15—VII—1977)。宍粟郡福知溪谷 (lex., 20—VI—1976), 音水 (2exs., 20—VII—1959, 3exs., 31—V—1972, lex., 21—V—1972, 3exs., 25—VI—1972, lex., 13—V—1972, 2exs., 3—VI—1973, lex., 24—V—1973, lex., 15—VII—1973)。水上郡〔山本, 1953, 1958〕。出石郡伊東町佐々木〔高橋, 1963〕。城崎郡日高町金山〔高橋, 1975〕。美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕。

11. *Lilioceris (Bradyceris) lewisi* (Jacoby, 1885)

ルイスクビナガハムシ

戦前神谷氏により美しい原色で図説され(日本の甲虫, I. 1: 2, pl. 1, f. 2, 1937)注目された。県下水ノ山での記録は古くあり, 辻氏は同山の山頂で吹きあげられてくる6 exs.を採集され見せて下さった(内lex. 恵与さる)。県下全般には大変個体数の少い種の1つである。

食草としてはマイヅルソウ・ナルコユリ・ミヤマナルコユリ・ギボシグサ・オオバキボシ・ヤマナルコユリ・チゴユリ等多く知られている。

産地: 神崎郡大河内町砥ノ峯 (lex., 2-VII-1977)。宍粟郡音水 (lex., 22-V-1965, K. Tsuji leg.)。城崎郡阿瀬渓谷〔高橋, 1978〕。養父郡水ノ山〔岩本, 1936, 高橋, 1978, 6exs., 11-VI-1972, K. Tsuji leg.〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1936, 辻・岩田, 1972〕。

12. *Lilioceris (s. str.) balyi* Chûjô, 1962

ペーリークビナガハムシ

本種は原記載以後現在の所採集記録は何処からも知られていない。最近芦屋市の奥池からネクイハムシの新種が記載されている(木元, 1981)。思わぬ種がまだいるわけでこの種ももっと良く調査してみなければならぬ。

産地: 兵庫〔♂♀, G. Lewis leg., 中條, 1962〕。

13. *Lilioceris (s. str.) merdigera* (Linné, 1758)

ユリクビナガハムシ

本種は兵庫県下から篠山産(岩田久二雄博士採集)というのがある(高倉, 1961)。これが県下で唯一の記録でその後採集されたと言うのを知らない。筆者も未採集である。県下の産出状況の不明の種である。

生態に就いては狩谷(農事改良資料, 40, 1933), 高倉(北九州の昆虫, Vol. 8, No. 1: 1-2, 1961)の報文が貴重である。食草としてはテッポウユリが知られている。

産地: 多紀郡篠山〔岩田久二雄博士採集, 高倉, 1961, 大野, 1967, 長谷川, 1980〕。

14. *Lilioceris (s. str.) parvicollis* (Baly, 1873)

クビグロクビナガハムシ

本種も一般的にはそう個体数の多い種類ではない。余り山地にはいないのか県北部山岳地帯での産が知られていない。

生態についての詳しい報告はないが幼虫の記載はある(林, 日本幼虫図鑑, p. 492, f. 924, 1956)。

産地: 川西市山原、笹部〔仲田, 1978〕。神戸市六甲山 (lex., 15-VII-1956), 谷上 (lex., 3-V-1957), 金剛童子山 (lex., 24-VI-1956), 藍那 (lex., 19-VI-1978, 2exs., 27-VII-1978, lex., 18-V-1980)。相生市三濃山 (lex., 3-V-1969, lex., 3-V-1974, lex., 18-V-1974)。水上郡〔山本, 1953, 1958〕。出石郡伊東町〔高橋, 1963〕。

15. *Lilioceris (s. str.) rugata* (Baly, 1865)

ヤマノイモアカハムシ

普通に産する種である。食草はヤマノイモ、オニドコロ、ウチワドコロなどヤマイモ科の植物が知られている。生態に就いての報告はほとんど知られていない。幼虫については林氏の図説がある(日本幼虫図鑑, p. 492, f. 925, 1956)。

産地: 津名郡五色町下堺〔堀田, 1978〕。洲本市三熊山〔Hirochi etc. 1977〕。三原郡諭鶴羽山, 鮎屋〔大野, 1969〕。川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田, 1978〕。川西市西谷村〔Kimoto et Hiura. 1964〕, 笹部, 山原〔仲田, 1978〕。Hiogo〔Baly, 1865〕。神戸市御影〔関, 1933〕, 保久良山 (3exs., 1-V-1975, 2exs., 12-V-1978), 袖谷〔鳥居, 1961〕, 布引 (lex., 17-V-1958), 鳥原 (lex., 2-V-1943, lex., 2-V-1957, lex., 5-VI-1966, lex., 26-VI-1966, lex., 3-VIII-1966, lex., 24-VII-1966, lex., 11-VI-1967, 2exs., 2-V-1971, 2exs., 16-V-1971, 2exs., 26-V-1971, 4exs., 30-V-1971, 4exs., 13-VI-1971, lex., 27-VI-1971, lex., 11-VII-1971, lex., 25-VII-1971, 2exs., 18-VII-1971, lex., 12-V-1972, lex., 23-VII-1972, lex., 27-IV-1973, lex., 1-V-1973, 3exs., 5-V-1973, lex., 4-V-1974, 2exs., 5-V-1974, 3exs., 9-VI-1974, lex., 27-VII-1974, lex., 3-VIII-1974, lex., 12-VI-1974, lex., 17-VII-1976, lex., 1-V-1977, lex., 8-V-1977, lex., 1-VI-1979, lex., 1-VI-1980), 藍那 (lex., 29-V-1978, 2exs., 8-VI-1978), 谷上 (lex., 29-IV-1938), 丹生山 (lex., 5-V-1956), 高取山〔鳥居, 1961〕。水上郡柏原 (lex., 10-V-1953)〔山本, 1953, 1958〕。神崎郡笠形山 (lex., 12-V-1966)。多可郡白山 (4exs., 3-V-1973, lex., 27-V-1973), 三谷 (2exs., 24-VI-1975)。神山郡大河内町川上 (lex., 18-VI-1977)。相生市三濃山 (2exs., 7-V-1972, 2exs., 6-V-1973, 3exs., 20-V-1973, 3exs., 6-VII-1973, lex., 18-V-1974, lex., 1-VI-1974, lex., 8-VI-1974)。宍粟郡音水 (lex., 20-VII-1959, lex., 10-V-1970, lex., 31-V-1970, lex.,

21—V—1972, 2exs., 11—VI—1972, 1ex., 25—VI—1972, 1ex., 30—VII—1972, 1ex., 13—V—1973, 1ex., 3—VI—1973), 坂ノ谷 (1ex., 9—VI—1973)。城崎郡城崎町 (1ex., 25—X—1978)。

16. *Lilioceris* (s.str.) *subpolita* (Motschulsky. 1860)
アカツヤクビナガハムシ

普通にいる種である。食草としてサルトリイバラ、シオデ、タチシデが知られている。生態については古く井口宗平氏のものがある。(昆虫世界, 9巻, 93号, pp. 143—145, 1905), 他には詳しい報告はない。幼虫の記載は林氏のものがある(日本幼虫図鑑, p. 491, f. 923, 1956)。

産地: 三原郡成相峠〔大野, 1969〕, 論鶴羽山〔堀田, 1978〕。洲本市先山, 由良〔堀田, 1978〕, 三熊山〔Hirochi etc. 1977〕。川西市笹部〔仲田, 1978〕。神戸市御影〔関, 1933〕。保久良山 (1ex., 1—V—1975), 摩耶山 (1ex., 14—VIII—1955), 二十歩 (1ex., 26—VI—1955), 鳥原 (1ex., 8—V—1977, 1ex., 6—VIII—1980), 鈴蘭台〔鳥居, 1961〕, 山の街 (1ex., 17—V—1953, 1ex., 5—V—1955), 箕谷 (1ex., 9—V—1948), 藍那 (1ex., 14—VII—1978), 押部谷町木見 (1ex., 20—VII—1980)。水上郡神楽村〔山本, 1953〕。飾磨郡雪彦山 (2exs., 14—VII—1957)。宍粟郡音水 (7 exs., 13—VII—1958, 4exs., 16—VII—1972, 1ex., 3—VI—1973, 3exs., 24—VI—1973), 坂ノ谷 (4exs., 9—VI—1973)。養父郡氷ノ山〔木元, 1964〕 (1ex., 25—VII—1955, 11exs., 27—VII—1956)。美方郡扇ノ山〔高橋, 1975〕。

17. *Oulema atosuturalis* (Pic, 1923)

セスジクビボソハムシ

体の大部分が黄褐色を呈するので本属の他の種とは簡単に区別出来る。

食草はメヒシバ、アキメヒシバ、オヒシバ、エノコログサなどが知られている。

生態に就いては高倉康男氏が詳しく発表しておられる(新昆虫, 9巻, 6号, pp. 33—34, 1956)。

兵庫県下では氷ノ山で採集出来たのみで全く他の産地が無い。良く調べてみなくてはならない種である。

産地: 養父郡氷ノ山 (2exs., 24—VII—1955)。

18. *Oulema dilutipes* (Fairmaire. 1885)

アワクビボソハムシ

大野市の解説によると(昆虫と自然, II, 4: 9—13, 1967) 従来 *tristis* の名で報告されたものはほとんど

本種の記録と考えてよいと言っておられ後藤氏の図説されたものも *dilutipes* であるとされている。真の *tristis* は北方系の種のように本州(高尾山), 九州(長崎), 対馬, 朝鮮半島, 支那大陸, シベリアに分布する種である。いづれにしても筆者未採集なのでよくわからない。県下では個体数が大変少ない種と考えられる。食草としてはモロコシ、ヒエ、キビ、アワ、エノコログサ、ヒメシバなどが知られている。

詳しい生態に就いての報告はないようであるが菅原寛夫氏の観察文がある(昆虫, 17巻, 6号, pp. 66—68, 1949)。

産地: 宝塚市〔後藤, 1955〕。水上郡遠阪村〔山本, 1953, 1958〕, 柏原〔中條, 木元, 1960〕。

19. *Oulema oryzae* (Kuwayama. 1929)

イネクビボソハムシ

イネの害虫として良く知られている。食草としてイネの他にキタヨシ、ヨシ、カモガヤ、オオアワガエリ、マコモ、チガヤ、オオヌカキビ、タイワンアシ、チゴザサ、コバノウシノシッペイ、タイワンアシカキ、ドジョウツナギ、サヤヌカクサ、エゾノサヤヌカクサ、ヌカキビなどが記録されている。

害虫として有名な虫だけに多くの文献にその生態が発表されている。

兵庫県下では中央部から北部にかけての産地が知られているがもっと広く分布しているのではないだろうか。

産地: 氷上郡黒井・幸世〔山本, 1958〕。出石郡出石町福佳〔高橋, 1963〕。豊岡市上陰〔高橋, 1975〕。養父郡氷ノ山 (1ex., 2—VIII—1953, 2exs., 25—VII—1955, 1ex., 27—VII—1956, 2exs., 25—VII—1959), 関宮町大久保〔木元, 日浦, 1971〕。

以上兵庫県産クビナガハムシ19種の県下の分布を眺めて見た。可成り珍しい種を産すると共に仲々豊富な産出状況である。今後より一層キメの細かい分布を調べ続けたいものだと思っている。

(10—IX—1981)

(S. 45: TOSHIRO TAKAHASHI

神戸市

)